

くちばしが折れた クロツラヘラサギ

この剥製はくせいになったクロツラヘラサギは、今年ことし3月20日に多々良川たたらがわ河口干潟かこうひがたで餌えさをとっているときに、上おのくちばしが折れるという事故じこにあいました。そのため何も食べることができなくなり、2日後ごの3月22日に死体したいで発見はっけんされました。

このクロツラヘラサギは、昨年さくねんの6月頃がつころに朝鮮半島西側の離島ちようせんはんとうにしがわで生まれ、12月に冬ふゆを過ごす初めすの旅はじとして、仲間なかまといっしょに多々良川河口たたらがわかこうへやってきました。死しんだ時は、まだ生後9ヶ月ときくらいでした。せいご かげつ

レントゲン写真しゃしんなどを使って事故じこの原因げんいんを調べてくれた獣医さんじゅういの話はなしでは、何か大きなゴミなに(例えば、自転車たの車輪じてんしゃ・魚網しゃりんなど)にくちばしひを引っかけてしまい、無理むりに外はずそうとして折れたのではないかとのことでした。お

二度にどとこのようなことが起こらないよう、

みんなで多々良川たたらがわをきれいにしましょう！



元気だった頃のクロツラヘラサギ



多々良川河口

くちばしの折れた“クロツラヘラサギ”

平成 19 年 3 月 20 日、ふくおか湿地保全研究会の会員が、多々良川で怪我をしているクロツラヘラサギを発見しました。

クロツラヘラサギは環境省のレッドリストで絶滅危惧 IA 類に指定されており、治療のためでも勝手に捕獲はできません。また、野鳥は人間を怖がるため、逃げようとして怪我がひどくなったり、捕まった時のショックで死んでしまうこともあるので、慎重にしなければいけません。

この個体を発見後、すぐに福岡県水産林務部緑化推進課と福岡市動物園に連絡し、専門家のアドバイスを受けながら捕獲しようと試みたのですが、2日後に死体で発見されました。

鳥のくちばしには神経や血管がとおっていて、感覚が鋭い部分です。折れたときの衝撃や痛みはひどいものだったことでしょう。背中が血で汚れており、かなりの出血もあったようです。



【写真提供：木下氏（ふくおか湿地保全研究会）】



【写真提供：岡部氏（(財)九州環境管理協会）】